岳南朝日

岳南朝日新聞社
〒418-0033
富士宮市野中東町46-1
代　表（0544）28−0200
ＦＡＸ（0544）28−0218
編　集（0544）28−0234
営　業（0544）28−0220
月977円　1部60円

構成資産の整備などで論戦

富士宮市議会9月定例会

一般質問を継続

富士宮市議会9月定例会は25日午前、一般質問を継続し、渡辺佳正、松永孝男、野本貴之の3氏が登壇し、国立病院機構静岡富士病院移転後の課題や北条金物店跡地の活用、世界文化遺産富士山構成資産の整備、多文化共生社会の実現について当局をただした。

国立病院機構の病院移転後の課題

人材充実など支援策図る

渡辺氏は国立病院機構静岡富士病院の機能が今月末までに駿東郡清水町の静岡医療センターに移転を完了することから、在宅患者の医療や地域医療の充実に向けた市の継続的な関わりをただした。

小田剛男保健福祉部長は、8月31日に開かれた国立病院機構との対策会議で機能移転後の支援策として挙がった▽市立病院の外来拡大▽在宅掛かり付け医の紹介▽重度心身障害患者の救急対応の充実▽富士市内の外来診療継続▽静岡医療センターのショートステイ受け入れ▽富士圏域における在宅支援の協力依頼―などについて、県地域医療構想により富士医療圏域での人材充実、地域包括支援システムの構築、既存の訪問看護ステーションの拡大を図るとともに、医療機関や介護事業所への働きかけ、専門医師の要請を行っていくとした。

これまで稼働していた入院病床数が130床減少する事態について小田保健福祉部長は「県地域医療構想創生会議によれば、富士医療圏域での慢性期病床が現在の870床から740床に減少することになるが、2025年の予測では必要な病床数は676床と試算され、影響は少ないものと見られる。しかし、この数字は刻々変わるため、変動を見ながら診療体制の強化と充実を図っていきたい」と述べた。

同病院の土地取得について須藤秀忠市長は「旧陸軍病院時代から長く営まれた約400坪の広大な土地のため、簡単に運べる話ではなく、土地取得はあくまでも選択肢の一つ。時期的な面も含めて条件をすり合わせ、十分に協議を重ね、状況が合えば購入することになる」と述べるにとどまった。

浅間大社西側の店舗跡地活用

当面は暫定利用で

松永氏は、富士山本宮浅間大社西側の北条金物店跡地の活用方法についてただした。

杉山洋之企画部長は「富士山世界遺産センターオープンとともに、多くの人たちが集う門前町を象徴するような多目的広場として暫定整備し、にぎわいを創出。その後、プロポーザル方式で事業者が整備する」とし、12月の同センター記念イベントでは広場として使用すると説明。暫定的に一般客の休憩場所や商店街イベントなどまちなかの拠点空間とするため、椅子やベンチ、テーブル設置や花による飾り付け、ワゴンカーによる飲食販売などを行う予定とした。

須藤市長は富士宮市の産物や名産品を一堂に集め、販売する場所としての構想が当初あったとしたが、プロポーザル方式でさまざまな人の知恵を借りたいとし、「できれば1000人ほどの人々が一堂に会して楽しめる場所にしたいが、それには富士山世界遺産センターにどのような客が訪れるか動向を見る必要がある」との考えを示した。

松永氏は商店街東西への観光客の具体的な誘導策についてただした。

土井一浩産業振興部長は、まちなかの看板設備や観光ボランティアによるまちなかウオークガイド、英語ガイド、英語ウエルカムマップ、浴衣祭り、和菓子作りなどを挙げた。

松永氏は「世界遺産センターが、ただ見学しただけで終わりの、その後リピーターが来ない施設にならないよう企画が必要では」とただした。

杉山部長は県でツアー企画を検討しているとした上で、観光客のニーズとずれないようアンケート調査を含め、富士宮市との話し合いの中でさまざまな企画を考えていくとした。

富士山構成資産

神社案内所の平日開設へ

野本氏は世界遺産富士山構成資産の富士講遺跡（人穴）、村山浅間神社、山宮浅間神社について、AEDの設置や平日の案内所開設、富士山物産販売の可能性、富士講遺跡洞穴をはじめとする整備計画、案内所の防犯などをただした。

佐野宏幸教育部長は各神社案内所内にAEDを設置できるよう「管理を行っている地元住民と協議し、前向きに検討している」とし、案内所は史跡富士山管理委員会で管理運営しているが、「今後は観光ガイドボランティアなどの活用も含め、平日開設を十分検討したい。また防犯については、人数の出入りを把握するために赤外線センサーを付ける予定だったが、防犯カメラでも人数把握ができることから、防犯カメラ設置を前向きに考えている」とした。

富士講遺跡は本年度で整備が完了し、一般公開を予定しているが、「周辺整備を含めて、地元住民の協力が必要。洞穴に入るためにヘルメットを着用してもらう可能性もあるため、話し合いを進めている」とした。

また、杉山企画部長が物産販売について「構成資産の周囲（指定地外）に地元住民から販売所を設けたいという声が出れば、民間企業の協力が得られるような支援などをしていきたい」とした。

野本氏は外国籍を持つ子供と、父母が外国人で日本国籍を持つ子供の支援拡充について、人数の把握と保育園・幼稚園の入園支援などについてただした。

池谷眞徳教育長は「関係機関が情報を共有して支援などを行っており、不就学の子供はいない。小・中学校でも担当する教諭が個別の日本語指導計画を立てて指導に取り組んでいる。また生徒支援員も2人おり、国際交流協会の協力を得ながら学習支援を行っている。ボランティアからの支援の手が足りないという声が高まれば、また支援についても考えていく」とした。

「宮町まつり」と「ふじのみや門前市祭り＆特産品フェア」が初コラボ

人があふれる宮町通りのまつり会場

富士宮市内のにぎわい創出を目指したイベントが24日、富士山本宮浅間大社周辺で開かれた。富士宮市宮町商店街振興組合主催の「宮町まつり」が同商店街で、隣接する浅間大社駐車場では富士宮市観光協会内の実行委員会主催の名物市と、富士山特産品振興会によるフェアを1つにした「ふじのみや門前市祭り＆特産品フェア」が初コラボレーションして催され、より多くの市民がイベントを楽しんだ。

「宮町まつり」は6月に続いて2回目の開催で、商店街を歩行者天国にして多くの人たちが楽しめるイベントを展開しようと若手を中心に企画。本年度は4回にわたって実施されることになっており、そのたびに異なる催しを考えている。

今回のメーンとなったのは旧市川家具店跡地に特設された『たこのふわふわ巨大スライダー』。高さ11㍍、全長18㍍、幅6・5㍍の大きなもので、船に巨大なタコが絡まっているような外観。中に入ると10㍍ほどの高さから滑り降りるスライダーを楽しむことができ、子供たちは同商店街スタッフらと一緒に滑り降りては歓声を上げていた。

このほか、特設舞台で富士宮囃子(ばやし)の演奏やダンスなどを披露。通りには市内の飲食店や雑貨店などが店を並べ、商店街の店舗も通路に自慢の逸品を並べてそれぞれが元気いっぱいに誘客に励んだ。訪れた人たちは路上の店舗だけではなく、商店街の店にも立ち寄るなどして買い物を楽しんでいた。

「ふじのみや門前市祭り＆特産品フェア」では、富士宮市内のさまざまな特産品を販売。市内の茶業者でつくる富士山頂熟成茶の会が呈茶、JA富士宮女性部が新商品『かぼちゃのおはぎ』の試食品を提供したほか、市外からも客が買い求めに来るという『しぐれ焼き』や、地元産の野菜、地酒、ニジマスの加工品など富士宮市で作られた自慢の逸品が並び、訪れた人たちに同市の食をPRした。また、富士宮高校会議所も地元菓子店の協力で制作した防災菓子などを販売した。

特設舞台では、重須孝行太鼓保存会の演奏やマジックショー、富士宮高校会議所メンバーによる研究発表などが行われ、訪れた人たちを楽しませていた。

（3面に写真特集）

自動車図書館　ひばり号

▽26日＝北山保育園（9時50分～10時30分）大富士保育園（10時50分～11時30分）内房小学校（10時～10時30分）東小学校（14時30分～16時）柚野小学校（13時～13時40分）芝富小学校（14時30分～15時30分）

MS&AD
皆様に愛され、ともに生きる
あいおいニッセイ同和損保
富士支社　☎〇五四五（六一）八七一一

購読申し込み先

●富士宮（0544）
鈴木新聞店 ☎(26)3285
中野新聞舗 ☎(23)3333
勝亦新聞店 ☎(26)1100
SHO南部（新聞センター） ☎(26)2543
中西新聞店 ☎(28)1133

●吉原（0545）
植草新聞店 ☎(52)0370
鈴木新聞店 ☎(52)5503
星野新聞堂 ☎(52)0376

●富士（0545）
雨森新聞舗 ☎(61)5049
田畑新聞店 ☎(61)0011
星野新聞堂 ☎(61)0275

●鷹岡（0545）
安倍新聞店 ☎(71)3327
SHO鷹岡（新聞センター） ☎(71)8156
望月新聞店 ☎(71)2647

●富士川（0545）
石井新聞店 ☎(81)1333
佐野新聞店 ☎(85)2093

募集
葬祭ディレクター(正)
月給/23～28万円
(職務手当5万円含む)
休日/月7～8日(交代制)
委細面談
藤原葬祭
TEL(0544)26-3840